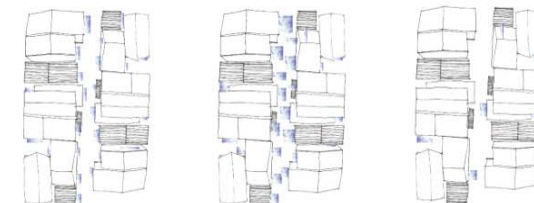


木造の小さいボロ屋の集合は、集まって暮らすことの豊かさ、火災の危険とが常に降り合せている。木造密集地特有の距離の近さをもとに、このふたつの特徴を日常の豊かさに還元できないかと考えた。

木造密集地の消極的な窓の並びに、ファイアライトの硝子の扉戸をしつらえる。もともと距離がちかい家の集合のすまに、雨が降るとひらくトビラをつくる。向かい合わせの棟どうしが隙間を縫うことで、道に接続するちいさなトンネルを連続させる。家のナカは街路に拡張し、憂鬱な雨の日に、町は少しつながる。また火災の緊急時には火をさけて逃げる行為そのものが、町に防火経路を描く。木密特有の、上から下への火の広がりがたから、ファイアライトは防火経路を守り、延焼を食い止めるとともに避難するための時間を稼ぐ。雨の日の小さな傘の集合は回廊を組み立て、町に安全を約束する命綱となる。

▶雨の日にひらかれるトビラ



雨の日にひらかれるトビラ  
家同士が手をつないであいだに回廊を組む  
雨がやむと、パタンパタンと、雨のうちはわは閉じていく

▶雨の日に少しつながる傘の集合



雨の日、私たちは、領域をもちあわす。  
透明な傘の表面に、雨の模様を屋根をかたちづくり  
透明な傘の下に揺らいだ波紋が床をうつつ



雨が強く降るとき、領域はつよく彩られ、  
雨が弱く降るとき、柔らかな波紋に包まれる。

生活と時間の一部に扉戸を設計することで、緊急時にも迅速に対応できるのではと考えた。

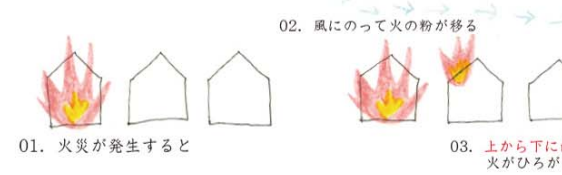
▶東京木造密集地の可能性と危険

不燃領域率 ■ 40%超 危険地域  
■ 木密危険地域



木造密集地は東京の内陸をかこむようにあり、広い範囲が危険にさらされている。特に火災への対策が必要である。

▶木密地帯の特殊な火災の広がり方



▶火災発生時に防災ずきんとなるファイアライト



逃げる際に、防災頭巾となる扉戸をひらく。家のなかにも避難経路をつくるとともに、上からの炎をファイアライトが制抑制し、町に防火経路を組み立てる。ファイアライトが延焼を食い止め、避難する時間を稼ぐ。